

# オオハンゴンソウ駆除方法

市民の力で外来種オオハンゴンソウを駆除しましょう。

## オオハンゴンソウとは、

■オオハンゴンソウは、北アメリカ原産の外来種です。明治時代中期に観賞用として導入されたものが逃げ出して全国（特に北海道・東北地方）に広がっています。

■キク科の多年草で高さ1~3mに成長します。種と根、地下茎で増えます。とても繁殖力が強いので、外来生物法で特定外来種に指定されています。

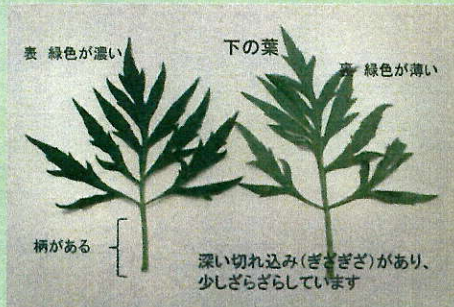
### オオハンゴンソウの見分け方

■5月頃の若葉はヨモギに似ています。ヨモギは、柔らかく葉の裏が白い、オオハンゴンソウは、葉の表面がざらついていて、葉の切れ込みが深いという違いがあります。

■7月~10月にかけて、先の方に5~6cmの黄色い花を多数つけます。花びらは少し下に垂れ下がります。真ん中の玉は黄緑色ですが、黒っぽく見えることがあります。



若葉はヨモギに似ています。



## オオハンゴンソウに似ている植物



### キクイモ

北米原産の多年草で、世界中に外来種として分布している。夏にキクのような黄色い花を咲かせ、地中にできる塊茎は食用になる。草丈は2メートル以上になり大きく生長する。要注意外来生物



### アラゲハンゴンソウ

北米原産の多年草で、開花時期はオオハンゴンソウよりやや早く6月~9月。高さは60~80cm程度。花径は4~6センチで、花びらは黄色く、真ん中の玉は黒紫色をしている。オオハンゴンソウは黄緑色。



### ハチミツソウ

北米原産の多年草。高さ1.8mほど。養蜂の蜜源植物として日本に導入され、北海道、長野県など各地で定着が確認されている。滝沢市内でも確認されている。

## 外来種(生物)とは

■日本には外国から多くのいきものが渡ってきています。現在の国境の「外」から江戸時代より後に日本に移入した生物のことを「外来種(生物)」といいます。

■外来種の中には、一部ですが地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのあるものが出て、「侵略的外来生物(エイリアン)」と呼ばれています。この侵略的外来種の中でも、特に日本の自然環境や農林水産業、人の健康などに悪影響を与える生物が、「外来生物法」によって「特定外来生物」に指定されています。

■外来生物法の目的は、特定外来生物による生態系、人の生命身体、農林水産業への被害を防止することです。そのために、問題を引き起こす海外起源の外来生物を特定外来生物として指定して、その飼養、栽培、保管、運搬、輸入などを規制し、防除等を行います。

■特定外来生物を植えたり・撒いたり・運んだり・野外に放ったりすると懲役3年以下若しくは300万円以下の罰金に問われます。

例えば、オオハンゴンソウを庭に植えたり、種を撒いて育てたりすると法に触れる恐れがあります。

■特定外来生物(オオハンゴンソウなど)対策は、被害が発生してからでは遅く、防除に大変な費用と労力が必要なので早めの対策が必要です。

■外来種の脅威から日本の植物たちを守るためには、何よりもまず入れないこと、増やさないことが大切です。また、もし侵入しているようであれば早期発見、早期駆除が必要になります。

### ■外来生物被害予防 3原則

1. **入れない** ~悪影響を及ぼす外来生物をむやみに入れない
2. **捨てない** ~飼っている外来生物を野外に捨てない
3. **拡げない** ~野外にすでにいる外来生物は他地域に拡げない